

事業概要

補助事業番号 22-1-089

補助事業名 平成22年度 アジア映画コンペティションの開催 補助事業

補助事業者名 N) 東京フィルメックス実行委員会

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

ア) アジア映画コンペティション開催

昨年の日本映画業界を見てみると、「おくりびと」の米国アカデミー賞受賞の快挙や、近年日本映画のシェアが外国映画を上回るといった記録が報じられたり、テレビ局が主導するテレビドラマの映画版などが日本映画の記録を興行的に支えている反面、世界で最高を誇るカンヌ映画祭のマーケットでは、日本での買い手が決まったのはわずか数作品というほどの記録的な低調ぶりであり、この現象は異常なほどの様相を呈しており、近年の映画産業全体が健全ではない、との専門家の見方もある。

こうした中、中立的なNPO法人としての当会がこれまで10年にわたって実施してきた、商業性とは別の側面、作家性という価値に軸を置く活動が喫緊の課題となってきた。そこで世界を取り巻く社会問題に取り組むべく、当会では平成22年度より戦略的に解決に向けて取り組む。当会の主催事業である国際映画祭「東京フィルメックス」において、表現に関しては監督という職業的立場にあり、作品の表現にかかる責任者の「作家性」に主眼をおいたセレクションを行い、このプログラミングは世界の映画業界から「日本で唯一、傑出した高く国際水準にある映画祭」と高く評価されてきた。多彩な才能がアジア諸国から現れる一方で叫ばれているのは、作家性ある作品を生み出し、世に送り出すプロデューサーの不在である。そこで中期目標として、「アジアの文化多様性を追求するためのアジア映画コンペティション」に着手し、同時に「多様性」を備え、「作家性」の価値を見出すことの出来る若い才能を育てていくことも目指す。実際に近年多く設置されている映像専攻の学部、学科や、大学院をもつ大学等と連携し、インターン、ボランティアなどを積極的に受け入れ、実際に作品に接して映画祭業務の一端を担うことで、通常大学で学ぶ理論に加えてプロデューサーに必要な確かな鑑識眼と資質に磨きをかけてもらう。当映画祭では、アジアを中心に過去20年にわたり、世界の映画の最先端に精通した2名のディレクターが新進作家たちの将来性も踏まえてプログラミングにあたり、製作予算の大小に関わらず既存の概念にとらわれない強烈な作家性のあふれる、アジアの文化多様性を見るものに喚起させる作品を紹介し、この点をセミナーやシンポジウムでさらに掘り下げ、将来日本映画を海外に発信することにつながる「新しい才能に道を開く」使命を果たすための事業を実施する。

本事業は以上をもって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

ア) アジア映画コンペティション開催

「心を豊かにしてくれる真のアジア映画を、海外に発信する国際映画祭を開催し、もって公益の増進に寄与する」目的を遂行するため、「第11回東京フィルメックス」を実施して、日本をはじめとするアジアを中心に厳選した、主に新進作家たちの独創性豊かな作品群を日本の観客に紹介し、作家たちと日本の観客との創造的な交流の機会を提供し、かつ体系的に海外に発信させる。

実施会期： 11月20日(土)～28(日)計9日間
実施会場： 東京都千代田区・有楽町朝日ホール(11/21-/28)
東京都千代田区・東京国際フォーラムホールC(11/20のみ)
東京都千代田区・有楽町朝日スクエア
東京都中央区・東劇
東京都千代田区・TOHOシネマズ 日劇2
東京都千代田区・丸の内カフェ
上映作品数： 45作品、67回上映
総入場者数： 19,047人
登壇ゲスト数： 92人
セミナー数： 11プログラム

●会場別 (全9日間)

有楽町朝日ホール	(8日間、28回上映)
東京国際フォーラム・ホールC	(1日間、2回上映)
東劇	(9日間、18回上映)
TOHOシネマズ 日劇2	(8日間、8回上映)
有楽町朝日スクエア	(7日間、セミナー7プログラム)
丸の内カフェ	(3日間、3プログラム)

以上、実施

●上映作品(部門別)

1) 東京フィルメックス・コンペティション：

アジアの新進作家による、独創的で文化多様性の追求をかなえる作品を上映するコン

ペティション部門。本事業のメイン部門。

国内外の計5名で組織された審査員が最優秀作品賞と審査員特別賞を選び、最終日に表彰。全作品の監督をゲストとして招き、可能な限り上映後に観客と質疑応答を行った。10作品上映。

2) 特別招待作品：

作家性に富み、かつ現在の映画製作のトレンドを示す新作を紹介する部門。

全作品の監督をゲストとして招き、可能な限り上映後に観客と質疑応答を行った。

10作品上映。

3) 特集上映：

映画史に足跡を残す重要な映画作品を特集。日本で紹介されていない海外の巨匠や、海外に知られていない日本の作家を特集し、国内外の映画人や観客に広く紹介。

a) ゴールデン・クラシック 1950「松竹黄金期の三大巨匠」

松竹の黄金期を支えた渋谷実作品を特集。海外での作品上映に繋げるため、英語字幕付で上映。松竹との共催企画。(14作品 18回上映)

b) アモス・ギタイ特集「越えて行く映画」

映画史に名を残すイスラエルの巨匠、アモス・ギタイ監督の作品を特集。

東京日仏学院との共催企画。(3作品 3回上映)

4) 関連イベント

今回はさらなる10年へ向け、会期前に丸の内カフェで常連の方のみならずフィルムメックス初めての方にも向けての東京フィルムメックス指南をテーマにした数回にわたるトークイベントを行った。

また、映画祭の期間中には子供向けの映画鑑賞会として『「映画」の時間』を実施。劇場でアニメ作品を鑑賞後、実際にアニメを作るワークショップを開催した。会期中には他にも、今年度の特集上映であった渋谷実監督作品の魅力について、海外の著名人方に加えご家族も会場にお迎えしてのトークイベントや昨年好評だった字幕翻訳について的一般向けトークイベントも引き続き実施された。

2. 予想される事業実施効果

●各会場との連携で新たな客層への広がり

今回、メイン会場（朝日ホール）の観客は前年比1,000人増、レイトショー上映では前年比158%と、公式部門上映への来場者数はかなりの増加となった。その要因としては、今回レイトショー会場を初めてT O H O シネマズ 日劇を使用したことでメイン会場とのお客さまの移動の容易さ、連携に繋がったものと思われるほか、今回はさらなる10年へ向け、

会期前に常連の方のみならずフィルムメックス初めての方にも向けての東京フィルムメックス指南をテーマにした数回にわたるトークイベントを行ったところ、多くの未来場経験の方の参加につながり、まさに理想的な事前告知を行うことができたことも新たな映画ファン獲得への一歩に繋がったのではないかと考えている。

また、期間中に「映画」の時間（子供向け上映＋ワークショップ）を開催したことで、親子鑑賞もしくは子供は「映画」の時間を体験、親はフィルムメックス鑑賞といった今までなかった広がりを持たせることができた。「映画」の時間については、親御さまから子供たちの映画への興味を引き出せたとのことのお礼のご報告をいただくなど、映画鑑賞教育の観点からも今後への良い提案材料となった。

●新しい日本映画の才能発掘・海外へ

今回のコンペティション部門では、最優秀作品賞は「ふゆの獣」（内田伸輝監督）、観客賞には「Peace」（想田和弘監督）が選ばれ、結果として日本の新しい作品が脚光を浴びる形となったことは、日本の若い才能を東京から世界へ発信することへ繋がった。映画祭後、これらの作品は日本での劇場公開が決まり、さらに多くの海外での映画祭でも上映されることが決まっている。このことは、東京フィルムメックスが日本での国際映画祭として海外での評価・信用を得ていることを示す、意味のある結果となった。

また、閉会式に前述の監督2名のほか、審査員特別賞を獲った「独身男」のハオ・ジェ監督も含め受賞者全員が出席できたことは感動を呼び、ご来場いただいたお客さま、主催者の双方にとっていい閉幕となり、監督、映画祭両方への今後の期待を高めさせるものになったのではないかと思われる。

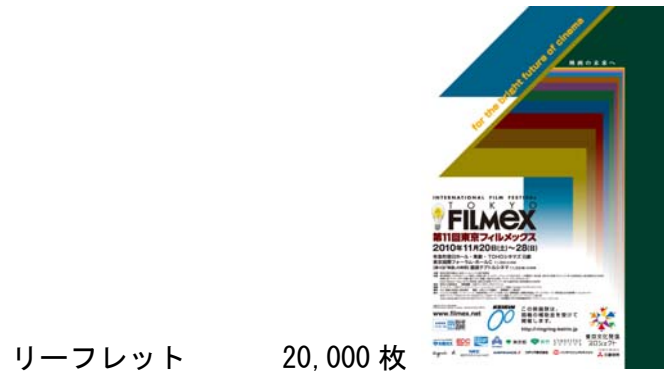
●クラシック作品の再評価と海外での普及貢献

昨年に引き続き松竹と共催して行った日本映画の特集上映では、日本映画の黄金時代とされる1950年代に「松竹黄金期の三大巨匠」として活躍した小津安二郎、木下恵介、渋谷実の3監督作品を世界へ向けて発信するため英語字幕付きで上映。中でも、当時の映画界を牽引していたにも関わらず小津、木下のように海外でまとまった形で紹介されることのなかった渋谷作品を8本一気に上映し、国内のみならず世界的な再評価へのきっかけとなることが期待されている。実際すでに2月のベルリン国際映画祭で今回の8本全てが上映され、満席の回が出るなど反響を呼んでいる。また、以前の特集で取り上げた作品でも今も海外の映画祭での上映に繋がっていることを考えると、特集上映は映画史の再考に取り組み、歴史から今後の映画が進むべき道・可能性を示すことが映画祭で率先してできることを意識し、今後も広く長い目で充実したプログラムを提案できるよう努めていきたい。

3. 本事業により作成した印刷物等



ポスター 2,000 枚



リーフレット 20,000 枚



チラシ 85,000 枚



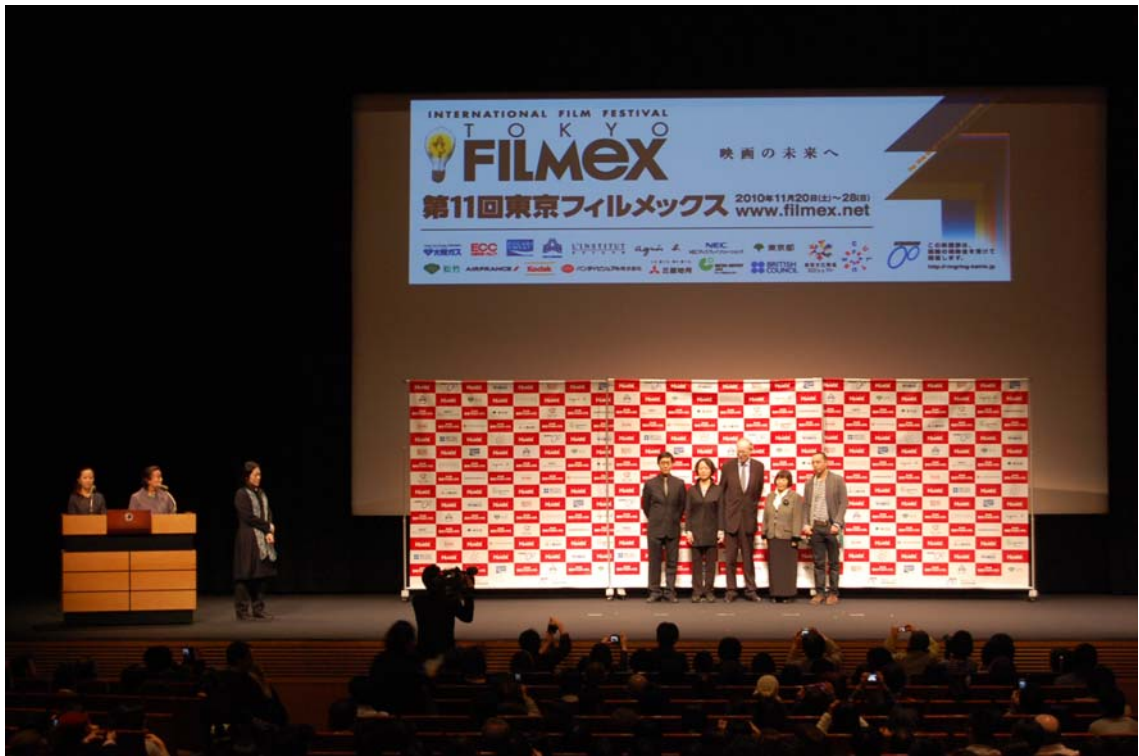
公式カタログ 3,000部

そのほか、劇場看板（有楽町マリオン）、バックボードなどを制作し、「競輪補助事業」である旨、露出をアピールした。

※尚、貴法人制作の「Ring Ring」のCFを有楽町朝日ホールにて28回、

TOHOシネマズ 日劇2にて8回、計37回上映した。







4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 特定非営利活動法人東京フィルムメックス実行委員会
(トクテイヒエイリカツドウホウジントウキョウフィルムメックスジッコウイインカイ)

住所： 107-0052
東京都港区赤坂5-4-14 トレード赤坂ビル 3F

代表者： 理事長 蓮沼 健 (ハスヌマ ケン)

担当部署： 事務局 (ジムキョク)

担当者名： スタッフ 金谷 重朗 (カナヤ シゲオ)

電話番号： 03-3560-6393

F A X : 03-3586-0201

E-mail : canalla@filmex.net

URL : <http://www.filmex.net/index.htm>